

昭和四十一年二月二十五日招集
第二回市議會臨時會會議錄

館山市議会第二回臨時会会議録

昭和四十二年二月招集

二月二十五日(金曜日)

一 現在議員三十四名でその氏名次より

一番	吉田 勇治郎	二番	鈴木 正一郎
三番	小柴 孝	四番	館石 伝蔵
五番	田中 禄郎	六番	秋山 六三郎
七番	田村 源治郎	八番	望月 照正
九番	安西 益男	一〇番	辻田 実
一番	石井 正	一三番	菊井 敏博
一四番	志村 信作	一五番	小沢 恵太郎
一六番	関 武夫	一七番	黒川 佐太郎
一八番	西村 真次	一九番	藤田 好治
二〇番	保科 忠夫	二一番	江田 徳太郎

二番君塚喜三	二三番中村省吾
二四番島野茂樹郎	二五番萩生田七郎
二六番鳩田繁	二八番山田敬宇
二九番鈴木市蔵	三〇番安藤竜吉
三一番安沢徳順	三二番三沢節
三三番高橋文治	三四番山本昇
三五番松本藤太郎	三六番山口康

一議事日程

第一議案第五号 二ヶ処埋場建設工事請負契約について
一、該案百二十一条による出席説明員

市長	本間 讓
助役	小出 武男
庶務課長	山口 実
衛生施設課長	吉田 耕一

土木課長

新井重助

建築課長

池田春雄

一本議會。事務局長局長補佐 及書記

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

矢藤恭一

同

錦織睦子

一次席議員 三十一名

二次席議員 三名

午後 三時十分

開議

議長(田中祿郎君) 本日の出席議員数 三十一名。 二より第二回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案説明のため地方自治法第百二十一条、規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、吉田課長、山口課長、新井課長、池田課長以上、者が出席する旨の報告がありました。

議案、配付漏れはありませんか。―なしと認めます。

会議録署名員の決定を行います。

本臨時会の会議録署名員に四番議員館石伝蔵君、三番議員高橋文治君、以上、両君を指名いたします。 二より御意見異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。 よって決定いたします。

会期の決定を行ないます。

本臨時会々会期につき議会議決案協議会々意見は本日一日ということであります。

おはかりいたします。会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって会期は一日と決定いたしました。

本日議事はお手元に配付の日程表により行ないます。こゝより市長う本臨時会招集の案件につき説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間謙君) 本日臨時市議会を招集し当面緊急を要する案件について御審議を願うことといたします。

本日お願いいたします案件は先般御決定をいただきました正本衛生処理場設置に関する条例に基づくごみ処理場建設工事請負契約についてでございます。

建設業者選定につきましては特許の関係から一般入札は難点がありますので随意契約の方法をとることにより指名参加願いの提出をとりまいた十一社を選定方を清掃審議会に諮問いたしまして、審議会においては事業実績及び資本金等を参考とします。太陽工業株式会社、日本電建株式会社、宇佐土木株式会社、東亜工業株式会社、岩本工業株式会社、三機工業株式会社、六社を選び調査検討しさらに日本電建株式会社、岩本工業株式会社、三機工業株式会社の三社を選び見積り合わせ等を行ない十分検討、慎重審議の末、機能的にすぐれており合理的な管理ができるもの、また外観からも日本電建株式

会社、も、が、も、つ、と、も、適、当、で、あ、る、旨、の、答、申、を、い、た、だ、き、ま、い、た、
 っ、て、市、当、局、は、種、々、検、討、^{いた}し、特、に、見、積、り、額、等、に、つ、い、て、も、
 会、社、側、と、交、渉、を、重、ね、充、分、な、施、設、で、い、か、も、妥、当、な、価、格、
 で、あ、り、ま、た、三、年、間、保、証、す、る、な、ど、で、協、議、が、で、き、な、う、で、日、
 本、電、建、株、式、会、社、と、随、意、契、約、を、い、た、い、な、く、こ、こ、に、上、程、い、た、
 し、た、次、才、で、ご、ざ、い、ま、す、。、ま、う、く、御、審、議、を、お、願、い、す、る、次、才、
 で、ご、ざ、い、ま、す、。

詳細につきましては担当課長から御説明申し上げたいと
 存じます。

・議長(田中稔郎君) 日程第一議案第五号を上程いたします

(書記朗読)

議案第五号 ごく処理場建設工事請負契約について
 ・衛生施設課長(吉田耕一君) 議案第五号のごく焼却炉建設
 工事の請負契約について御説明申し上げます。

契約金額三千八百六十五万円で東京都中央区八重洲六丁目五日本電建株式会社取締役社長上原秀作氏と契約したい。かように考えるわけでございます。なお、この焼却炉建設箇所といたままでは昭和橋ぎわの河川敷跡に建設をいたしたい。このように考えるわけでございます。予定坪数を二千坪を予定しておるわけでございます。

なお、焼却炉、上屋、車庫、洗車場、その他付帯施設等も含めまして、延坪数二百九十九坪程度の施設を作りたい。このように考えるわけでございます。今回この契約についてみなさま方、御決議を願いたい。かように考えて提案した次第でございます。よろしく願います。

二七番(鳴田繁君) 関連一まてちうとお聞きたい。また希望を述べたい。この考えますが、先般、市長さんが、私も旧富崎村にきて話し合いう場を持たない。

その際に焼却炉の話もあまいて、そうして地元の人から非常にどんなあいつの処理に苦んでおるといふ話があまいた。

それは地域が富崎は狭い。海岸といえば海女が活躍する場所である。人口の稠密ということからいっても、本県においても一番か二番かかるが故に非常に処理に困っておる。これができたということに關して、こゝう困つておるところのものをそこに結び付けて、關連性を持たせて、うごく処理してゐるといふような方策をお考え願いたい。これについて、あつた話に合いまゝだが、その後具体的に処理することができるといふような考えができまゝなかどうか、それをお伺いしたいと思ひます。

・衛生施設課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。確かに特別清掃地域の中心とした施設というふうな考え方のみでございせん。全市のゴミを焼却するといふような考えが

に持つていかなければならぬというふうに考えるわけでございますが、特に御質問の富崎地帯、或いはそれに類するような地域につきましては、今後回収を実施していくようにしたい。このように考えておるわけでございます。

その後、相談という御質問でございますが、まだ、具体的な点については、理事者と、細かい打ち合わせ等できておりませんが、御質問の趣旨にそうように私ども持つていきたい。かように考える次第でございます。

二七番(鳴田繁君)非常に御親切な御答弁を得て安心しております。このうちは非常に困っておるから、思いをぞいいたて下すって何とか方法を講じてゐていただきたい。特に希望をいたしまして、終ります。

一四番(志村信作君)元来、どんなあいは農村地帯より市街地が多いのは、通例でございますが、十トン炉三基と思ひ

ますが、毎日運搬してある総体の量がわかって、計画だ
 と思います。が、館山市のトンあいは、日平均どの位トン
数になっておりますか、また、いつこゝが施行さいます、いつ
完成するか、また二カ年の継続事業になるのでありま
 しょうか、その三つをお尋ねいたします。

衛生施設課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。平均の収
 集量でございますが、はつきりとはかりではかつておりません
 が、普通の日で十二、三トンというふうにみております。
 夏季等におきましては、十七、八トンという見方を持ってお
 ります。

着工、完成予定でございますが、御決議をいただきますら
 一日も早く、着工に移って行くようにしたい。完成でございま
 すが、まだ、はつきりしてありません。一や二ながら、今までの
 交渉段階から参りまして、九月には完成するということにな

ことになつてゐるわけでございます。

予算措置の關係でございますが、ニカ年の継続事業といひまして、四十年度に於ては、炉の本体を完成するというようなことと、四十一年度におきまして、それに伴います付帯施設をやるというふうな継続議決をお願いしてあるわけでございます。かような考え方で進みたいと考えてゐる次第でございます。二〇番(井田実君)契約の相手の会社の内容について参考までにお伺ひたい。

この契約いたしますものも、いろいろ建物とか、炉体工事付帯工事、いろいろのものが含まれてゐるわけでございますが、日本電建という名前は聞きますが、事業内容等につきましては、あまり知らないわけですが、こういう衛生処理場等の建設におきましては、ときたま、会社が請負うけれども、實際の仕事は下請とか、そういうふうなところでやる

場合もあるということを聞いておりますが、日本電建の会社の中に建築関係の事業部門とか、さらに土木関係の事業部門、さらに電気、そういう部門が、会社もそのものにどの程度持つておるか、お伺いしたいと思っております。

衛生施設課長(吉田耕一君) 答え申し上げます。日本電建の会社は概要でございますが、この炉の部面につきましては、会社は研究炉部というものがございまして、その研究部が主体になって行なっているのが現況でございます。

なお、その他建築関係というふうなことも実施しておることとは事実でございますし、そういう炉というものは専門的に実施しておることとははっきりわかっております。

なお、土木の問題につきましては、私どもの調査では、はっきりそういう専門の部門があるかどうかは、はっきり承知しており

ませんが、なお契約の前には十分検討してみたい。

このように考えております。

「カー・電気とか、いろいろな部面がある」ということは事実でございますが、いろいろ話合った過程におきましては、電気とか、そういう故障が起きてすぐに修理ができるというような方法を十分考えていくということからして、早くなおさなければならぬという部面につきまして、でき得る限り、地元の業者をお願いしたい。というような考え方で進んでいるようにございまして、私どもも、その線では、お願いしたいというふうに考えておるわけでございます。

○一番（サ田実君）請負の形につきましては、相手方がそういう問題については、責任を持ってくれば、下請に出そうがいかと思うんですが、この種の問題については、下請の扱いによつては、故障一たり、手なおしする場合にすぐできないような事態も生ずるのではないか、そういう懸念

念もありますので、私はこの点について細かい面についてははっきりしておらないようでございますので、会社と市で十分話し合いて気をつけて明確にしてやっていただきたいというふうに思うわけでございます。そうことをお願いしまして十分とはいいませんが、趣旨が述べられておるようでございますので、その点について御要望申し上げておきたいと思ひます。

七番(田村源治郎君)お尋ねしたいと思ひますが、現在ごサ処理で運搬してゐるものは、何軒あるか、最高が十八トンなら三十トンでいいのか、その点先を考えたのか、もう一つは、一社が三千八百六十五万、あと二社は三十トン、能力に対して金額は幾ら示したか、そうして三社、行なつてゐるところを果たして視察について状況を完全にみてきたか、その点を明らかなりにいただきたい。

この焼却炉を作つて修理費をどう程度見込むのか。

もう一つは灰をかき出す自動車は一台でいいか。それから、金額、受け渡しは、設備々々を作ると同時に受け渡すか。その金額は、だれが検査して受け渡しするのかが、尿みないにいいかげん、もうであつては困る。それだけを説明していただくまい。

・衛生施設課長(吉田耕一君) 答え申し上げます。私ども最高夏季等におきまして、十七・八トンというのを考えておるわけでございますが、その点につきましては、人口で定価してあります。特別清掃地帯というものを基礎にして、四万五千人程度を最高かけておるわけでございます。ところが、今後は、基礎といつて、三十三トン、今後大体十年程度の増加というふうなものをきまして、三十三トンというものを考えておるわけでございます。なお、人口等は、そう

一に考えておるわけでございますので御了承いただきたい
と思います。

なお三社に見積り額ということでございますので申し上げ
たいと思います。

日本電建、岩本工業、三機工業の三社から一応見積
りをお願いいたします。

全部の付帯施設を含めたものでない見積りをもちょうだい
したわけでございます。なぜならばまだ、予定地の敷正地
或いは地盤の調査というものが完成しておりません。

従いまして、はつきりした見積りを取るのには不可能だと
いうような観点から付帯事業につきましても、一応除外
して見積りももちょうだいしようといふわけでございます。
そうして炉体を中心といひまゝで正常な完全な地盤だと
仮定して炉を建て、炉に一切必要なものを付けまゝで

見積りをお示すようにということを特に申し上げても願ひいたわけでございます。

なお、付帯的にはいろいろ観光地でもござりますので、市長やあいつにもござりますように外観的にもきれいなものというように、また将来人口が急激にふえなときというように、ことを考慮いたしまして、今後増設する場合を考えて、煙突を増設したときにすぐ使い得る煙突というように、なものを勘案いたしまして、見積りを示してもらふように要請いたわけでございます。

炉を中心にございますところ、見積り額を申し上げますと、日本電建が二千九百九十八万八千円、若本工業が二千八百九十万、三機工業につきましては、こゝへ持っておりますので、うちほど申し上げます。

それから次の修理は、どういうふうにやるのかという御質問

だつと思ひますが、修理はこゝ電建等々他々状態を聞いてみましても特殊な新しい考え方で設計をしておるといふようなこと等からいたしまして、昭和八年に浦和市う焼却炉も建設されたそうでございます。その状況を伺つたわけでございますが、昭和八年ですから、その後三十有余年になりますけれども、まだ現在一回も修理はないといふようなこと等がございますので、私どもいつ頃又修理するようになるかといふような点等におきましては、まだ考えておりません。普通な状態であれば常識的な修理というものは、当分ないといふふうに考えておるわけでございます。

それから、灰出しの自動車一台でどうかといふことでございすが、大体燃焼量の一〇%か一五%程度が灰として出るということでございます。一日三十トン焼いても大体

幾うの量でもございません。従いまゝて一台あれば朝一回
灰水もすねばいいというふうなことでございますので、一台で
十分だというふうに考えております。

最後のでき上ったのちの請負金額に基く検査の点でござ
います。が、私どもも、この工事関係につきまゝては、
しろうとでございまゝて、土木課、建築課等の御協力
をいただきまゝて、そう、な、方々、検査監督指導という
面でも願ひいたしまゝて、実施いたらない、こゝうに考え
る次第でございます。

それから工事費の支払いでございます。が、契約の段階と
しては、一応でき高にまゝして一回、完成後に残額という
二回の支払いにいたらない、なうに考えております。

七番(田村源治郎君) 日本電建がやっているところは、ほかにな
かっただす。が、みてこなかつたんですか。

ほかの会社では、今に行かなくなつたか。

衛生施設課長（吉田耕一君）申し分けございませんで、

視察した個所でございますが、全部で六カ所視察

いたしました。水戸市にあります日本電建千葉市に

ございます太陽工業、草加市にございます東亜工業

富士市にございます岩本工業、もう木更津にありま

す三機工業、それから岩本工業、箱根の施設、こう大

カ所をみせていただいた次第でございます。

七番（田村源治郎君）日本電建は水戸市一かみて、なかなか

よいだけ、もうを作るうちに一つかみなくていいといつてもいい

ないから、二つ三つみる余裕はなかつたか、その点を明ら

かにして日本電建の工事はよかつたという点をもつと強カ

にあげてもらいたい。

衛生施設課長（吉田耕一君）ただ今、御質問にお答へする

前に先ほどの見積り額と点を申し上げたいと思います。
三機工業株式会社は三千六百二十万円でございます。
それから確かにお説のように一つは炉で完璧とはいえない
わけでございます。

一からながら定められた日数・時間等からいたしまして
おのおの各会社は各社々のパテントによりまして炉を持
つてゐるわけでございます。一つは炉の数を二カ所、三カ所
というふうに遠くに離れてやるということもちやうと困難で
みはかつたわけでございます。まず各社のパテントがどうい
う面で違ふかという構造を私ども調査していただい
たわけでございます。一ろうとでいふが、いゝ、それがいゝとい
う確定づける資料もございません。はつきりな面はい
えませんが、日本電建の炉につきましては新しい過程のパテ
ントで私どもも考えてゐる操作も簡単で、こゝについて

もないというふうな点、或いは焼炉温度も千二百度まで可能だというふうな点、こゝが一番いいというふうに確信を得たわけでございます。

なお日本電建が実施しております個所でございますが、茨城県で大体カ所程度、埼玉県三カ所、東京都一カ所、栃木・群馬・新潟・新潟というふうな面で各地の焼却炉の建設を実施しております。

その他専売公社とか病院というふうな面も六、七カ所実施してあるというふうなことで経歴書にもうたわけてあります。そういう面をみましても日本電建がいいんではないかという確信を得たわけでございます。以上でございます。

七番(田村源治郎君) 了解しました。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第五号は討論省略原案によ

リ可決いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって本案は

原案通り決定されました。

以上で本臨時会に付議されました案件全部を議了いたしました。

よって臨時会を閉会いたします。

午後 三時五十分 閉会。

本日、会議に付いた事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名議員の決定

一 会期の決定

一 市長・議案提案説明

一 議案第五号

出席議員

吉田 勇治郎

小柴 孝

田中 祿郎

田村 源治郎

安西 益男

石井 正

鈴木 正一郎

館石 伝蔵

秋山 六三郎

望月 照正

辻田 実

菊井 敏博

志村信作

小沢恵太郎

関武夫

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

嶋田繁

山田教宇

鈴木市蔵

安藤亀吉

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

欠席議員

萩生田七郎

安沢徳順

山口康

昭和四十二年二月二十五日

右会議の次第を録し、ここに署名す。

館山市議会議長

同 署名議員

同

田中 録郎
館石 佐太郎
古橋 文治

